新たな東北圏広域地方計画策定に関する第１０回有識者懇談会

日時：令和６年７月２９日（月）
　　１４：００～１５：４５
場所：東北地方整備局
　　９階会議室Ａ・Ｂ（WEB 併用）

出席委員
石井重成委員、姥浦道生委員、小笠原敏記委員、舘田あゆみ委員、浜岡秀勝委員、宮原育子委員

１．開会

２．あいさつ

３．議事
① 第三次東北圏広域地方計画中間とりまとめ策定スケジュール（案）について
② 第三次東北圏広域地方計画中間とりまとめ（事務局案）について

４．閉会

主な発言内容
議事
　事務局より議事について説明を行ったのち、中間とりまとめ（事務局案）に関する意見交換が行われた。各委員から出た意見は以下のとおり。

【Ａ委員】
・　青字の部分について特段意見はなく、自分が申しあげたところは意図を汲み取っていただいて修正していただいた。
・　ただし、前回、前々回も申し上げたが、もう一歩踏み込んでも良いのではないかというのが感想である。昭和の全国総合開発計画の時代では、開発を進めていこうという発想からはじまり、平成の時代では、そろそろ人口が増えない中で、特に東北では維持管理をどうしていくかという発想になった。
・　集落もなんとか生き延びてきたが、皆で頑張って維持することができていた平成の時代に対し、令和はそろそろ限界がきていると思う。本格的に正面からどう向き合っていくかという時代である。
・　集落の維持管理や DX の活用については全く否定するつもりはなく、その努力はしていくべきである。一方、それでも限界が来るような集落をどうするかについては、もうそろそろ真剣に取り扱

った方が良いのではないか。

- その際、前回も前々回も申し上げたが、コンパクトシティという考え方を提案するだけではなく、計画に落とし込んで考えておかないと自然に消えてしまうものがたくさん出てきてしまうと考えている。失って初めて気付くもったいなさが非常にある。地域の管理、土地利用の管理、空間管理、文化、なりわい、お祭り、ごはんの作り方等、継承しておけば良かったというものがある。どこに住むかという意味での集約化に加え、集落で培われてきた文化をどう継承するか明示的に議論しておくべきである。議論しておかないと、気づいたらなくなってしまうという時代に来ている。
- 本計画は、少しずつ自治体が実施し始めたことを拾い上げてそれをさらに進めようとする立場か、まだ誰もやっていないことを問題意識として持ちこれから 10 年間で考えていく立場か。後者の要素があっても良いのではないか。
- 上記について具体的にどのようにするべきかという議論は、未だどの地域でもされておらず、それを押し進めていく段階である。国土管理の観点や文化の維持保全、継承の観点から考えていく必要がある時代になってきている。他の委員が仰っていた「地域管理構想」が近い話題だと思うが、それに加え、もう少し総合的な観点から集落のこれからについて検討が必要である。
- キャッチコピーについて、「チャレンジ」という言葉は前向きで良い。
- マイナスをマイナスと見ずにむしろそれがプラスだという考え方、それをどう生かしていくかという考え方はこれから非常に重要だと思うので、案２の「課題を新たな価値に変換」という部分は非常に良い。

【座長】

- Ａ委員のご発言の中で、ハードの部分はよく書かれているが、私たち自身の色々な知恵の総体、生き方、スタンスなど、目に見えづらい部分をこの計画の中で少し触れて欲しいとのことだったが、本文中のどこで書き記すべきか。

【Ａ委員】

- 資料１p85（より一歩踏み込んだ市町村・地域管理構想への深化）にさらに一歩踏み込んだ話を加えられるか。

【座長】

- 新しく「おわりに」を作成すると良いのではないか。
- 「おわりに」に、Ａ委員が仰った全体を司る一つの思想のような内容、何を大事にすべきかを書くと良いのではないか。

【Ｂ委員】

- 中間とりまとめ（案）の内容について特に意見はない。
- 資料１p26、p84 の６行目に使用されている「条件不利地域」とは何か。本文を読まないと理解ができない。タイトルを読んだだけで条件不利地域とは何かを分かるよう書き記して欲しい。
- 資料１p26、p84 の「条件不利地域」には、対象としている地域の整合をとる必要がある。
- キャッチコピーについて、１案から５案の中で「東北」又は「東北圏」と書かれているものがあ

るが、どちらが適切か。語呂の都合上、「東北」と書いているのかもしれないが、この計画が東北圏について考えているため、タイトルには「東北圏」を使用するのが望ましい。

・　コンセプトをもう少し詰めたい。気になる箇所が散見される。他の委員の意見を踏まえてまたコメントさせて頂きたい。

【座長】

・　条件不利地域の扱いについて、定義を入れておいた方が良いということか。

【事務局】

・　「条件不利地域」については検討させていただいて、分かりやすく表現したい。

【Ｃ委員】

・　内容としては共感する所が多い。

・　これまでの計 9 回の懇談会での議論や若者座談会を踏まえキャッチコピーを決めるということは、この計画の真に重要な要素と認識している。１つ１つの施策が既存のものの一覧であることを踏まえると、現状認識やこれからのまちづくりの理念に対して魂を吹き込んでいくことが、この計画の重要さと理解している前提で、改めて 3 つの視点を共有したい。

・　1 つ目は、「新たな選択肢や新たなまちづくりの哲学を東北から示していくこと」である。
これは、人口減少・少子高齢化が国内で最も進んでいるからこそ、東北から示していくのだという大義がある。

・　若者座談会に参加されていたスピーカーの方々は、「東北にはあれもない、これもない。東京の方が良い。」という価値観とは異なる価値観で、自分らしく生きてきた若者たちである。昭和の時代が、「大きくてたくさんあって過密であること」が良しとされていたとしたら、小さくても少なくても過密ではなくても、そこに対して味わい深さを感じていた。人口減少が進むということは一人ひとりの存在感が大きくなるということでもある。歯車ではなく皆が主役になれるエリアが東北であることである。これらが若者座談会に参加されていたスピーカーの方々のメッセージの共通項であったと思う。従って本計画では、まちづくりの新しい考え方、KPI、在り様を東北から示していくのだという意思やリーダーシップを書ききりたい。

・　東北圏にまつわるグラフは右肩下がりのグラフが多い。そうした中、若者座談会では「一人当たりが利用できる面積」であれば、右肩上がりのグラフが作れるだろうという話が挙がった。「会社から帰ってきたら野菜が置いてあったことの体験した割合」など、若い人たちが味わい深い、存在が大きいと考えられるような指標や定量化したものをこのコミュニティから提示できると、本当に勇気の出るものにつながるのではないか。これらは必ずしも本文に含めなくても良く、参考資料等に含めて欲しい。

・　2 つ目は「開いていくこと、オープンであること、閉じないこと」である。

・　このことが極めて重要である。東北圏は、関係人口、地域内外の交流によって地域づくりを進めていく、イノベーションを内発していくことの聖地である。

・　古くは 2005 年に発生した中越地震の経験がある。当時 2,000 人の住民が 10 年後には 1,000 人になってしまったが、震災前にはなかった新しい取組が生まれ、「ここに住んでいることが楽しい」と思える地域住民が増えた。これは人口減少時代のまちづくりの希望である。

・　能登半島地震の復興計画策定に向けて石川県庁の方々と協議する機会が何度かあったが、石川県庁の方々は中越地震の事例をとても参考にされていた。
・　東日本大震災の際も、自治体と行政、都市部の企業が直接つながることや、地域に参入してきた人たちが触媒となって、行政や企業やコミュニティが攪拌されていくという経験が見られた。こうした原体験を持っている東北圏は関係人口の国内の聖地であると言える。だからこそ意思を持って開いていく、閉じないことを改めて示していくことが重要である。
・　3 つ目は「課題は余白でもあるし、可能性でもあるということを我々が信じること」である。
・　これはオープンであることと表裏一体の関係である。
・　様々なことが顕在化している課題先進地だからこそ、その課題に対して様々な企業や様々な人々が関わることができる余白でもあると認識をしたり、デザインをしたり、可能性であると我々がメッセージとして伝えることが重要である。これが挑戦を促していくためのエンジンになり、東北らしいメンタリティの持ち方、まちづくりの哲学であると考える。
・　以上の３点である。新しい選択肢やまちづくりの哲学を東北圏から示していくこと、オープンであること、閉じないこと、課題は余白でもあるし可能性であるということを信じていくこと、この３つがすでに本文に書かれているものもあるが、今回改めて提示した。
・　キャッチコピーについては、「東北から新たな選択肢～課題を新たな価値に変換し、開かれた東北圏へ～」（案１のタイトルと案２のサブタイトルを組み合わせたもの）を推薦する。

【座長】
・　Ｃ委員のご発言では、本計画に３つの方向性を込めたほうが良いということであった。また、世代が変わった上での次の 10 年の新しい計画であることをもっと強烈に打ち出していくべきとのことだった。
・　若者座談会の記録を読むと、参加していたスピーカーの方々が次の時代の主人公となって東北を動かしていくのだろうと考えると、とても心強いと感じた。今まではこれもダメあれもダメと悲観的になっていた東北だったが、フラットにオープンマインドで東北を見てくれていると感じた。
・　Ｃ委員のご発言にあった３つの話は、若者座談会に参加していたスピーカーの方々ないしはこれからの人達から、こうしたマインドをシェアできると良い。
・　Ｃ委員のご発言にあった３つの話を計画に入れられると良い。他の圏域ではなかなか言えない内容でもある。

【Ｃ委員】
・　我々には経験と体験と記憶の共有という大義がある。

【座長】
・　Ｃ委員のご発言内容は、本文中のどこに書き記すのが良いか。
・　「おわりに」に記すのが良いか。

【Ａ委員】
・　「はじめに」が良いのではないか。

・　資料１p1 30 行目「そこで本計画は、東北圏の将来を担う若者世代の考えや多様な価値観に寄り添い、東北圏に活力を生み出す新たなチャレンジも推進していく。」と「以上を踏まえ、本計画では、東北圏の将来像を「●●●●」（※検討中）と設定した。」の間に、「具体的には、」と続けて、Ｃ委員の発言内容を例示すると良いと思う。

【Ｄ委員】

・　Ｃ委員のストーリーが明るい未来とすると、その前段の暗い部分となりうる本計画の起点がどこにあるかをもっと強く言っても良いのではないか。該当部分は資料１p76～78 か。
・　最近、人口減少や自治体消滅を実感している。例えば、毎日新聞が富山県での配送を休止したことが挙げられる。これは富山県だけではなく東北でも起こりうることだ。実体験として、運転手不足により夜にタクシーを手配できないことがある。さらに、中小企業の製造業では仕事はあるが働き手を雇用できず仕事を続けられないという話を聞いたことがある。
・　人がいないと資料１p76 第 12 節の計画がどれも成り立たない可能性が高い。人が減らないことが最も重要であるという意味で、本計画はまだ総花的である。人が減ったら何もできなくなってしまうため、人を減らさないことについてどう考えるかに関する記載を強く書いた方が良いのではないか。もう少し危機感が出てきても良い。この危機感を書いておくと、Ｃ委員のストーリーが美しくつながるだろう。
・　資料１P76、78 の書きぶりについて、「若者」や「女性」に関する記述が多々見られ、「高齢者」に関する記述が散見される。以前も申し上げたかもしれないが、「若者」「女性」「高齢者」に対する対策も重要なので記述すべきである。しかし文章全体がこのトーンで書かれていると、本計画を書いている人は女性でも若者でも高齢者でもない人が書いているのかと思ってしまう。
・　資料１p76①女性の社会参画では、女性の働き方が書かれているが、男性が地域社会に参画することで女性の社会参画がさらに進むのではないか。このように働き盛りの男性に対する記載が薄い。地域を支えるのは女性、若者、高齢者だけではない。例えば、男性の働き方にも関与すること、大企業に対して男性の働き方も提言する等の少しでも記載されていると良い。
・　キャッチコピーは、案１を推薦する。「新たな選択肢を東北から」が良い。自分が主役、自分で選ぶという雰囲気があること、力がみなぎることの力強さや能動的な表現が良いと思った。皆様の話を聞いていて、案２「課題を新たな価値に変換し」も良いと思ったが、「開かれた」は若干の受動性を感じた。「東北圏を開いていく」だと良い。

【座長】

・　大切な視点である。女性や若者だけではなく次の世代の男性達が、どのように東北で暮らし、仕事や様々なことで活躍するかという点について、より具体的に、強調して男性の働き方等の記載があると良いという意見は大事である。

【Ｄ委員】

・　案１のコンセプト内の「若者や女性を含む」は入れなくても良い。

【Ｅ委員】

・　資料１p76 第 12 節は、人口は減ってきたが総動員で地域を盛り上げていこうというスタンスであ

ると感じた。

- 東北圏は人口減少下の中で、それぞれの仕事をする時に専門で行うことが難しくなっているのではないか。秋田県上小阿仁村では自動運転の実用化が行われている。ゴルフカートタイプの車でレベル２（ドライバーによる監視が必要なレベル）でサービスを提供している。ドライバーの人件費がかかる。実用化はしているが採算性が低い。ドライバーは自動運転の専業のため、他の仕事はしていない。自動運転車が朝から夕方まで四六時中稼働しているのであれば、時間を余すことなく働けるが、実はそうなっておらず運転していない時間がある。そうした時間はもったいない。一人二役もしくは三役で、ドライバーとしての仕事がない時間は、例えば、道の駅で販売員をしたり他の保育園の運転手をしたりなど、他の仕事を請け負うことで社会として効率的に動くのではないか。仙台や東京などの大都市であれば移動する人も多いので専業もできるだろうが、田舎だとそれが難しい。社会として隙間時間を埋めるような、いつでも仕事しているような社会を作ることが重要なのではないか。
- 上記のことが読み取れるように第 12 節を書き加えてもらえると良い。上小阿仁村の自動運転の事例は働き手の視点で話したが、仕事をしている方からでも同じようなことが言える。複数の会社で同じような仕事をマッチさせて効率化を図ることができると、人口が少なくなっても上手く社会を維持できている姿が見えるだろう。
- キャッチコピーについて、案１・２・４は、新しく今までとは違う姿に向かって進む、前向きであると感じた。案３・５は今あるものをしっかりと維持しながら今の社会を保つという視点で書かれていると感じた。新しい方向性に向かっていく言葉の方が、こういう将来を考えているのだということが伝わって良い。
- 案１・２・４の中でどれが良いかと考えていた。「東北ならでは」という観点が以前から議論になっていた。「東北ならでは」と考えるとなかなか難しくまとまらない。案１・２・４の中のいずれかが良いが絞り込めないでいる。どれがとは言えないが、案１・２・４の中の言葉をつなぎ合わせてできたら良い。

【座長】

- Ｅ委員のご発言は、これから人手不足になることが想定されるため、社会の中で１人が何役も担い取り組めるような仕組みを作るということか。タイムシェアのような考え方か。
- 中間のとりまとめ（案）には、すでに資料１p77、78 で「（２）デュアルライフ東北の実現」、「①副業・兼業・プロボノ等による首都圏等の多様な人材の受入れ」と記載があるが、それとは異なる話か。

【Ｅ委員】

- 兼業、副業は、社会を上手く一体的に進めるというより、個人が違う仕事を興味で持って行うという内容のためスタンスが異なると思う。

【座長】

- １人が何役も取り組めるような社会の仕組みを東北で定着させるという内容を本文に記載するのが良いか。

【Ｂ委員】

・　『案１と案２を合わせたキャッチコピーが良いと思いました。第３のコンセプトも踏まえて、自然・文化・魅力　コンセプトを検討いただければと思います。』（会議チャットより引用）

【座長】

・　Ｂ委員のコメントは、コンセプトの文言に自然、文化、魅力のような、東北の魅力も含めるべきという意見であった。
・　皆様の意見としては、案１・２・４の前向きな、自らが動いていくようなスタンスの言葉が含まれていることが重要とのことであった。
・　コンセプトの中に「次世代」という文言は入れるべきか。

【Ｃ委員】

・　次世代教育や地域キャリア教育の授業や議論でよくある話だが、次の世代が頑張れというメッセージは大事である。しかし、自分たちがまず背中で示していくという気概がないと逆効果となることもある。全体のトーンとしては次の時代、次の世代にバトンを渡していく、新しい挑戦も促していくこととする。さらに、現役の我々や高齢者も含めて様々な世代の人が自分達も背中で挑戦を示していくことが美しいと思う。一歩先を見ながら半歩後ろにいることも重要であり、時にはあえて自分が前に出ることも必要である。

【Ｄ委員】

・　次の世代の人に押し付けている印象を与えかねない。次世代のために、次世代と一緒にという姿勢が良いと思いつつ、「次世代」とは誰を指しているのか不明確である。現役も次の世代も皆で取り組むという姿勢が良いのではないか。

【Ａ委員】

・　キャッチコピーについて、案３の「チャレンジ」という言葉が良いのか分からないが、課題を課題と思わない部分と、課題を課題として解く部分の２つがあって良いと思う。
・　候補として「チャレンジ」、「イノベーション」に該当するキーワードなど、課題を様々な手段で解決する部分があっても良い。
・　案１を推薦するが、それに加え、課題を解決する表現はあって良い。

【座長】

・　「東北から新たな選択肢～課題を新たな価値に変換し、開かれた東北圏へ～」（案１のタイトルと案２のサブタイトルを組み合わせたもの）の場合、「新たな」が２つに続いてしまうため、整理すると良い。
・　「東北からチャレンジ！～課題を新たな価値に変換し、開かれた東北圏へ～」はどうか。「選択肢」をコンセプト内の「価値の変換」や「開かれた」と読み替えた。

【Ｃ委員】

・　「チャレンジ」ではなく「選択肢」の方が筋が良い。「挑戦」はどのような挑戦か多義的であり、他圏域でも唱えうると思う。東北から新しい選択肢を示していくことの大義や根拠が多くあるため、メッセージとしても強いと思う。新たな選択肢を示すこと自体がチャレンジである。コンセプトの説明の中にチャレンジというキーワードを入れる方が惹かれる。
・　細かい文言修正は必要があればメールでやり取りをしたい。

【座長】

・　本日も様々な視点や大切な話を各委員から頂いた。
・　この計画をただ紙の計画にするのではなく、今東北にいる人たち、生きている人たち、これから東北に来るかもしれない人たちも含めて、皆で東北を良い場所にしていくための動きや新たな取組を計画に示すこと、メッセージを強めて欲しいというご意見もあったため、書きぶりを修正して欲しい。
・　「おわりに」で全体のまとめとして計画書の一番肝になるような内容を記載して欲しい。
・　先日、首都圏と北陸圏の座長と鼎談をさせてもらった。北陸圏は能登半島地震の対応に追われている。首都圏は、栃木、群馬、山梨から横浜、千葉と、あまりに広く、地域の性格が大きく異なる。首都圏と一括りにしても異なる要素があるエリアをまとめていくのは非常に難しいという話を伺った。
・　振り返ると東北圏は東日本大震災や中越地震など、これから日本の国土でさらに遭遇するであろう様々なことに関する先進地であり、先に苦労をして見えていることがある。先ほどC委員が仰っていたように、もっとオープンにしていきたい。話を聞いていると、私たち東北圏はまだクローズしていると感じる。仲間内で話はできるが、圏域外でどう自分たちの役割を展開できるかという視点がまだ弱い。他圏域との関係、他圏域にとっての役割を強調できたら良い。他圏域の人達から遠慮している、おとなしいと思われる部分もある。
・　ただ、皆様と議論した中で、かなりアグレッシブな形の姿勢を打ち出せる計画になると思った。事務局でまた頑張っていただきながら最終的な確認を９月に実施したい。確認が必要な部分は、事務局からのメール等でコミュニケーションを取りながら、最後の計画を詰めていきたいと思うので、引き続きよろしくお願いしたい。
・　次回の懇談会では、9 月に文言の軽微な修正を行う。

以上